

海外自治体幹部交流協力セミナー2021（パリ事務所管内） 事業概要

テーマ：鳥羽市におけるSDGsの取組

日程：令和3年11月25日（木）17：00～19：00

※新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、オンラインで実施。

海外参加者：5名

Bertrand PLANTEVIN（プラントヴァン・ベルトラン）

ベイ・ドゥ・リュール・コミューン共同体 事務総長

Gilles SAULNIER（ソルニエ・ジル）

シャントピー 事務総長

Patricia van der LIJN（ヴァンデルリン・パトリシア）

イクセル（ベルギー・ブリュッセル） 事務総長、ブリュッセル事務総長連盟副会長

Fabrice VRILLACQ（ヴリラック・ファブリス）

ベイ・デリクール・コミューン共同体 事務総長

Sylvie BONNEVIE（ボンヌヴィー・シルヴィー）

サモエンヌ市事務総長、SNDGCT 会長技術顧問

概要：

（1）三重県鳥羽市 施策概要説明

鳥羽市観光課及び鳥羽市観光協会から、鳥羽市におけるSDGsの取り組みとして、海女文化が紹介された。鳥羽市の海女漁では、資源を取り尽くさないために、①決められたサイズに満たないアワビは取らない、②潜水の時期や種類を制限する、③水中ポンベを使わず素潜りで漁を行うなどのルールを作り、守り続けている。

また、鳥羽市水産研究所では、海洋環境の調査研究や養殖漁業初心者に向けた品目の開発、漁業者を対象とした研修の実施などを行い、海女漁のような伝統的な資源管理に現代的な技術サポートを行うほか、新規参入者のための事業も行っていることが紹介された。海女の伝統と水産研究所の技術によって持続可能な漁業が実現されている鳥羽市の特徴を学ぶ機会となった。



鳥羽市の海女から世界に向けたメッセージ

- ①持続可能な社会の実現
- ②世代を超えた女性のコミュニティ
- ③「複業」という生き方 ④笑い飛ばす力

(2) 質疑応答、意見交換

鳥羽市の説明後、参加者から鳥羽市水産研究所に対し、海女と研究者の二つの視点からの海の分析や、鳥羽市がSDGsを推進するうえで必要な財源などについての質問が寄せられた。また、参加者の中にも鳥羽市と同じく水産業や観光が盛んな地域の幹部職員がおり、鳥羽市及び鳥羽市観光協会の説明や質問への回答、考えを興味深く聞いていた。

参加者からも、フランスの保護原産地呼称制度が話題に上がった。時間の都合で詳しい説明は聞けなかったものの、次年度のセミナーではフランスと日本の制度を比較しながら、より深い意見交換ができることが期待される。



参加者との記念撮影